

## 米子の魅力を伝える「ことば」の発信について

### 1 目的・経緯

本市は、伊木市長の方針により、シティプロモーションを今後本格的に展開していくこととしているが、シティプロモーションは担当部局のみが行うものではなく、本市の隠れた魅力を発掘し、育て、発信していくのは、日頃から米子の良さを享受している市役所職員すべての責務である。

そこで、自主的な活動として、庁内で発行している「行革通信」において平成25年度入庁から29年度入庁までの5チームに米子の魅力を伝える言葉を考えてみようと呼びかけたところ、各チームから若手職員らしい様々な提案が出てきた。

しかし、最優秀作品選定を依頼した伊木市長が「惜しい」として、暫定1位を決めた上で再度のチャレンジを要請。また、市長は「こういった活動は若い職員だけのものではないので、飛び入り参加OKとしたい」との考えであったことから、全庁に改めて募集をかけたところ、様々な年代のチーム及び個人から応募があった。概要は以下のとおり。

### 2 応募作品総数51

参加者87人（8チーム、個人4人）

【8チームの内訳】平成25年度入庁チーム、26年度入庁チーム、27年度入庁チーム、28年度入庁チーム、29年度入庁チーム、23年度入庁チーム、  
地方創生推進課有志、財政課若手有志 計83人

【個人】環境政策課2人、建設企画課1人、行政経営課1人 計4人

### 3 最優秀作品 「水 まち 自然 エンジョイ!米子」

(作者：環境政策課 石飛真由美)

#### 【提案理由】

「水 まち 自然」…米子市民が米子のよいところ、と思っているところ

「水」…おいしい水道水、名湧水、中海、日野川、日本海

「まち」…地方における拠点都市、暮らしよさ

「自然」…海も山もすぐ近く

「ことば」には魂が宿ると思います。「エンジョイ!よなご」をくりかえし、見たり、聞いたり、使ったりすることで、市民の方々の気持ちにも、市の施策にも、行政を担うわれわれの感覚にも、そして訪れる人々のイメージの中にも、「楽しい」「楽しめる」「楽しもう!」が宿っていき、やがて、それが米子のまちをつくる勢いとなると思います。

### 4 今後の活動について

11月14日に立ち上げる「シティプロモーション推進チーム会議」において、今後の本市のシティプロモーションを推進していくこととしており、今回の提案も今後の市の魅力発信のひとつの素材として、推進チームの活動に繋げ、活用していく。

また、今回最優秀作品に選ばれた「水 まち 自然 エンジョイ!米子」は庁舎西側のレーンに懸垂幕として掲示する。